

板野中学校 同和教育だより

MY SKY No. 17

マイ・スカイ

2000年12月19日(毎月第1・第3火曜日きまぐれ)発行

発行者

編集・文責
駐吉成正士
副次本知己

あれからもう2年も経つのか……。もう何年も前のことのように思えるのに……。あの頃もそうで、今もそうなのですが、私は部落問題についてこう考えています。

「自分が部落差別を『受けるかもしれない』立場であれば、

そのことをきちんと知ったうえで、これからの自分の人生を考えた方がいい」

部落出身ということを知らずに人生を送って、部落差別と出会うことなく、その人なりに幸せな人生が歩めれば、それはそれでいいのかもしれませんが。でも、必ずしもそうなるとは限りません。誰からも立場を知らされず、部落問題学習も自分のこととして考えられず、人生の大きな節目になって初めて自分が部落出身であるということを知って、大きなショックを受けることだってあるのです。

かといって、「もし部落差別に出会ったら……」といった、消極的な考えで部落問題学習をしてほしいとも思いません。私はただ、人として当たり前のことができるようになるためにいろんなことを知っておいてほしいし、自分もそうありたいと願うだけなんです。

2年前、一人の生徒に「部落差別を受けるかもしれない立場である」ということを初めて伝えたことがありました。その後、その生徒のお父さんと2度お話することがありました。

1度目は、お父さんの豊かな人生経験とともに、親としての子どもに対する深い思いなど、たくさんのお話を長い時間にわたって教えてもらいました。

2度目は、大晦日の12月31日でした。その時も、本当にたくさんのお話を教えてもらいました。その時教えてもらった中でも、最後に教えてもらったことは特に心に残っているので、ぜひみなさんに紹介しておきたいと思います。

「先生、『ワサビの花よりハスの花』ですよ。この意味分かりますか？ ワサビの花はきれいな清流の中でないと花を咲かせませんが、ハスの花はどろどろの沼の中であんなきれいな花を咲かせます。同じ人生を生きるなら、ハスの花のような生き方をしたいものです……」

今でも忘れられないステキなお話であり、一生忘れることのない出来事でした。

さて、先に私は「『部落差別を受けるかもしれない立場である』ということを知って伝

た」と書きましたが、このことは「部落差別をするかもしれない立場である」人々も考えなければならぬはずなんです。つまり、上の文章の下線部の『受けるかもしれない』を『するかもしれない』に変えて考えられるようにならなければいけないと思うんです。

私も「差別をしないぞ！させないぞ！許さないぞ！」と思いつつ生活してはいるのですが、やっぱりどこかで人の気持ちを踏みにじったり、差別につながるようなことをしているのかもしれない。実際に注意を受けることだって度々あります。人間がまだまだダメなんですよ。でも一生かけて、少しはましな人間になろうと思います。



◇遅くなりましたが、修学旅行の「猿まわし」について少し……

猿まわし、かわいかったですねえ～。とにかく、無条件でかわいかった！調教師さんとの息のピッタリ合った芸。相当練習したんでしょうね。もう、すごいとしか言いようがありませんでした。そしてまた、見事なジャンプ！まさか……と思うほど高いところにあるバー（走り高跳びのようなもの）も、それは……と思うほど長い距離（走り幅跳びのようなもの）も、ひとつとび！！あんなすごくてかわいい芸を見せられたら、他の動物ショーなんて！！

でも、直前のマイスカイにも書きましたが、「猿まわし」について知るということは、部落問題学習をするということになるんですね……その昔、猿まわしは町々にまわってくる、「見せ物芸」でした。全国各地をたくさんの猿まわし集団が、どこから来たとも言わぬまま、出稼ぎに出て行っていたのです。今と変わらず昔も、それはそれは見る者を楽しませてくれる、メルヘンの世界でした。でも、そんな表の姿とは違う別の一面が、猿まわしにはありました……。《この続きや詳しいことは、「わたしの願い」に載っている「猿まわし復活」または古成まで！！》

修学旅行に行ったとき見た猿まわしは、すごくおもしろかったです。私はテレビで見たことはあるけど、本物の猿まわしを見たのは初めてだったので、猿のやっていた演技や猿がかわいかったことなど、印象に残っている場面がたくさんあります。それに私は「猿まわしてこんなに笑えるものなんだ。」と思いました。反対に、猿のやっていた演技を見て、「一つ一つの演技教えるのって、きっと大変だろうな。」と思いました。資料で読んだ「猿まわし復活」で、初めて昔の猿まわしのことを知りました。私は、猿まわしそのものが賤業として差別されていたところを読んだとき、「えっ？」と思いました。猿まわしにも差別があったことを知って、昔の猿まわしをしていた人の苦労があったから、今の猿まわしがあるんだなあと思いました。この資料の最後の方に

こんな文章があります。「太郎とジローが峠を越えた。けわしい峠を、人間と猿が一緒に越えた。人も猿も、越えなくては生命を輝かすことのできない、険しい峠を越えた。」この文章は一番心に残った文章でもあるし、その通りだなと思える文章でした。

あの楽しかった猿まわしの歴史の中に、こんな話があったなんて知りませんでした。「なんで住んでいるところだけで差別されんといかんのかなあ。」と、あらためて思いました。私たちが住んでいる板野にも太鼓張りという伝統技術があるそうです。こういった伝統技術を今に残すには、大変な苦勞があったんだろうけど、素晴らしい伝統技術なんだからやっぱり残さないかなあと思いました。

話は全然変わりますが、私が小学生だった頃「アメ細工」のおじさんが年に1・2回近所に来ていました。それはそれは見事で、やわらかそうなアメを、あれよあれよという間にいろいろな動物に仕上げていくのです。あのおじさんの指は、本当に魔法の指でした。あのおじさんどこに行ったんだろう……。板野には来てませんでした？

話がそれましたが「猿まわし」、また見たいものです。徳島に来てくれないかなあ～！



◇「差別と差別化」さてみなさんはどう考えますか？

じんけんきょういくけいはつすすいしん
人権教育啓発推進センターが出している「アイユ」という冊子に、ユニークな記事が出ていたのご覧になってください。

記者の眼

差別と差別化

若宮 啓文

果たして「差別化」という言葉
がいつ生まれたのか、定かには知
らないが、せいぜい十数年前のこ
とに違いない。

「我が社の新製品開発にあつ
ては、他社の製品とやかに差別化
を図るかが、最大のポイントであ
ります」

といった具合に、いまではしば
しば、しかも堂々と使われている。
差別化ができれば大成功で、でき
なければ失敗。差別化とは求める
べきプラスの価値であり、勝利の
秘訣であるかのようにだ。

おいおい、ちよつと待つてほし
い。「差別はいけないこと」なの
に、「化」がつけば「よいこと」
になるなんて、どこがおかしくな

いだろうか。この言葉が出てくる
たびに、首をかしげてしまう。

まあ、そう目くじらを立てなさ
んな、「差別化」とは性能・機能
の優秀さを強調する経済用語であ
つて、ただすべき社会的な差別と
は全く別次元のこと、だから気に
することはないのさ、と経済に強
い友人が私に説明してくれた。な
るほど言葉の使われ方はそんなの
かもしれない。

だけど……と、なほ考えてしま
う。人権感覚の高まりによつて、
せつかく人種差別や部落差別、男
女差別などをなくそうという機運
が少しずつ高まってきたときに、
わざわざ「差別化」なんていう言
葉を作らなくたってよいではない

か。

それに、差別と差別化は別次元
の話というけれど、本当にそう言
い切れるだろうか。

差別とは、他人との違いを不当
に強調することによつて自分が優
越感を味わうこと。だからこそ、
実は多くの人々がさまざまに差別
をしてほくそえんでいるのではな
かろうか。「他人の不幸は蜜の味」
というけれど、差別化という言葉
の中に、それに近い差別感が潜ん
でいなければ辛いだ。

「競争こそすべて」の時代が生
んだ差別化の言葉。やっぱり私は
使いたくない。

さてみなさん、あなたはどう思
いますか。

(朝日新聞編集局長)



◆南公会堂祭り……本当にたくさんの方が来てくれ

ました。これまでに最高の参加人数でなかったかな？中学生のみなさんも、部活動などいろ
んな単位で参加してくれてたように思います。ありがとう！今回特に「良かったなあ」と思

えたのは、今まで板野町民でありながら、南公会堂がどこにあるのか知らなかった大人や子どもたちが、その場所を知り、そこにどんな人がいるのか知ってもらえたことかなあ。あの場所が、学習会や地域の人々の活動拠点であり、差別解消していく砦のようなものなのです。知っててくださいね！ ◆徳島ミュージカル劇団びいたあばん「チャンスーほんの少しの愛をください」……予想通り、大入り満員となりました。さくらホールが満員になることは、実はあまりないのです。それを考えると、ミュージカル人気というだけでなく、その中身もみなさんの興味にピッタリ合ったんでしょね。こんな「本物」の舞台芸術が、地元で見られるような時代になったんですね……。いろんな芸術文化に触れる機会が多いということは、さまざまな「違い」を受け容れる機会が多いということにつながります。これはまさに、差別解消の土台となる部分です。これからもさくらホールに注目！ ◆ロバート・キャバ写真展……行ってきましたよ。といっても、子ども二人を連れていたので、じっくりと見ることはできませんでしたが……。会場内にはいろんな層の人々が、割とたくさん見えていました。やはり関心の高さは並外れているようですね。写真を見ていて思ったことですが、「この人は、戦場を通して『生きる』ということ伝えてようとしているのかな……」と感じました。

12月24日までですので、お忘れなく！

20世紀さようなら！ 21世紀こんにちは！

マイスカイも20世紀最後となりました。世間では、口を開けば「20世紀、21世紀」と、騒がしいくらいですね。でも、そんなに大騒ぎすることなんですかねえ……。

西暦とは イエス＝キリストが生まれたと考えられていた年を紀元1(元)年とし、それ以前を紀元前何年、それ以降を紀元(後)何年と表す方法。

*現在では、イエス＝キリストの誕生日は紀元前4年頃と考えられている。

世紀とは 西暦の100年をひとまとめの単位とする表し方。

こういうふうに社会科の教科書には書いていました。とすれば、キリスト教徒でない人々には結局どうってことないですよ。全然違う宗教の国では、こんなに騒いでいないのかもしれない。きっとその国には、私たちが言っているような「世紀末」なんて関係ないんでしょね！おかしなものです。そんな互いが、一つの地球に暮らしてるんですから……。

さて、何はともあれ、お正月を迎えます。元日に、みなさんは何をしますか？初詣？寝正月？年始参り？新年パーティー？それとも初日の出でも拝みに行く？みなさん、考えてみ

てください。私たちは、お願いをすることは多いですが、果たしてそれと同じくらい感謝もしているのでしょうか……？そう考えると、21世紀最初の朝日を拝むなら、20世紀最後の夕陽も拝まなければいけないように思えるのです。「今年一年ありがとうございました！」
「20世紀ありがとうございました！」とね！感謝！感謝！私もみなさんに感謝しなければいけませんね！

みなさん！今年一年本当にお世話になりました！ありがとうございました！

◇ これからの日程 ◇ ☆☆☆ ★★☆☆ ☆☆☆ ★★☆☆ ☆☆☆

- 12月22日(金) 2学期終業式⇒もう幾つ履くと……、21世紀!?
- 1月9日(火) 3学期始業式⇒正月ボケをなおして登校してくださいね!!

